

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川口市心身障害福祉センターわかゆり学園 児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 3日		～	R7年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	センター45名	(回答者数)	センター20名
○従業者評価実施期間	R7年 2月 3日		～	R7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	センター19名	(回答者数)	センター19名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広々とした環境（園庭・遊戯室）とプール、吊り遊具など子どもがのびのびと遊ぶことが出来る環境が整っている。	クラス毎で時間を区切り、安全面を確保しながら広いスペースでのびのびと遊ぶことが出来るようにしている。	安全面を確保しながらのびのびと遊べるような環境づくりをしていく。個々の体の動かし方や理解度、コミュニケーション能力などに合わせ、各遊び（遊戯室のトランポリンや吊り橋、階段ジャンプや園庭の総合遊具、プール、吊り遊具等）に狙いを持たせて都度評価をしていく。
2	親子登園日を設け、保護者支援を行っている。	親子登園の日に保護者と話をし、その時の悩み事などを聞くようにしている。また、ご自宅や他施設での様子、学園での様子をお互いに聞きあい、お子さんの全体像を把握するように努めている。ペアレントサポートタイムを月1回設け、行事等で一緒に参加をすることで親同士の横のつながりを持てるようにしている。学習会を開催している。	学習会の充実を図り、更に保護者の方が興味を持てる内容を提供できるようにしていく。ペアレントサポートタイムだけではなく、ペアレントトレーニング等を企画していく。
3	地域連携を意識して取り組んでいる。	併用している事業所や幼稚園、保育所に訪問をしたり電話連絡をして状況の共有をし、支援に活かしている。	関係機関と連携を取り合いながら横のつながり、縦の繋がりを付けていき、支援に活かしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化	建物の老朽化により破損箇所やにおいなど、気になるところが散見されている。	破損箇所についてはその都度修理を行っている。優先順位をつけて保育に影響が出ないようにしていく。建物は古いのが、清潔感はあるように掃除を徹底にしていく。
2	成人施設が同じ敷地内にある。	バスや玄関等、共有の場所がある。ゾーン分けをしているが、構造上分けきれないこともあり、留意が必要。	日々の活動において、ゾーン分けや時間で分けてながら児童、成人ともに安心して生活できる環境を整えていく。
3	常駐の専門職がおらず、常に情報共有をすることが難しい。	専門職を探している状態だが、見つからない。	お子さんが通っている病院等の訓練に職員が同行し、家庭と共通認識をもって、支援が出来るようにしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					令和7年3月25日	
心身障害福祉センターわかゆり学園 児童発達支援センター		利用児童数					45名	回収数 20名
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	2	0	0	・クラスによって人数が多いので親子登園が重なると狭く感じます。	クラスの人数によって配慮をしてスペースを確保し、工夫をしながら活動の提供を行ってまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	0	1	2	・十分過ぎる人数の先生方に見守っていただいています。 ・少し足りないと思う。先生の人数が足りず、保護者が他の単独の子を見ていることがあったり、遊具に1人で乗っていて危ないと思う場面がたまにある。	職員の配置については応援体制をとりながら国の配置基準以上の職員数で支援をしています。活動場面によっては更に職員数が必要となる場合がありますので、配置等を検討をし安全な保育が行えるようにしてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2	0	1		引き続き、お子様にわかりやすい環境となるよう整備してまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	4	0	0	・児童が口に入れたおもちゃや、よだれがついた手で触ったりしているので、集団で生活する為仕方ない事だと思いますが、止めたり消毒したりが見られないので気になります。	保育終了後、使用した部屋や玩具等は全て消毒をしています。保育時間中は簡易的な消毒となっています。保育時間中も定期的に確認をしながら衛生面に配慮してまいります。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	5	1	1	・児童の人数が多い中、先生達それぞれ自分の子の事をわかってきているのかは不明です。	職員一人一人が専門性を高められるよう研修の充実を図ってまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	3	1	1		2月に支援プログラムをホームページにアップしました。支援プログラムに基づき、支援を提供していきます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	3	0	0		引き続き、お子様のご様子や保護者様とお話をしながら個別支援計画の作成を行ってまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	2	0	1		引き続き具体的な支援内容が設定できるよう努めてまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	4	0	1	・先生達が児童の支援計画の内容を把握しているかはわからない。	職員全員が児童発達支援計画を共有していますが、さらなる共有を図り、支援計画に沿った支援が出来るよう会議等を開いてまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1	0	0		活動プログラムについては更に充実できるように検討をしてまいります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	4	6	2		年長児の交流保育が実施されています。地域の子どもたちとの交流を検討してまいります。
保護者への説明	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	1	0	0		引き続き、丁寧な説明を行ってまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	1	0	0		引き続き、丁寧な説明を行ってまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	2	1	1	・ペアレントトレーニングの機会はあると多い方が良い。	家族支援プログラムや保護者向けの研修会等を充実できるよう検討してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17	2	1	0		親子登園にご協力いただきありがとうございます。お子様の状況等親子登園日や連絡帳、お電話などで共通理解を図ってまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	5	0	0	・計画書の説明や話を聞いて来るときに、いつも忙しく時間がないのか、うんうんと早く、色んな所を見ながらどこか上の空でそわそわしながら早く話を終わらせたい！というのを察します。なのでもう少しゆっくり相談したかったり話したくても遠慮します。ここでしかこういう話を出来ないものでゆっくり聞いてもらえると嬉しいです。	十分なお時間が取れず申し訳ありませんでした。必要に応じて面接時間を十分にとれるようにしてまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1	1	0		今後もお子様の状況を確認しながら保護者の方の思いを大切にしております。

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	3	1	3		クラスごとのベアサボはありますが全体の保護者会は実施がありませんでした。保護者の交流できる機会を検討してまいります。また、家族参観等できょうだい参加について検討してまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1	1	0		ご相談やその申し入れに対して迅速に対応してまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	2	1	0		連絡帳やお電話、メール、通知文等で情報伝達を引き続き行ってまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1	2	6	・何処かで発信されているのでしょうか？	わかより通信や通知文等でお知らせをしています。また、自己評価の結果等は掲示板に掲示するとともにホームページにて公表をいたします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	1	0	0		引き続き個人情報の適正な取扱いについては徹底してまいります。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	3	1	1		各種マニュアルについては策定されており、職員は救命講習、防犯講座を受講しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	2	1	1		毎月避難訓練を実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	5	0	2		安全計画については掲示しており、各クラスにもファイリングしております。計画に基づき安全な保育を行ってまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	1	1		引き続き、事故（怪我）が起きた時にはすぐにご連絡をし、状況説明してまいります。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	0	0	2		今後もお子様の気持ちに寄り添い、安心感をもって通所できるよう努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	1	0	1		お子様の気持ちに寄り添い、楽しく通えるよう、努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	3	0	1		保護者の皆様のご意見を参考にし、より良い事業所になるよう努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日					令和7年3月25日
心身障害福祉センターわかゆり学園 児童発達支援センター							
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	1	・登園人数が多い時や少人数で保育をしたい時に、別な部屋を使って保育を展開することが出来た。 ・クラスの人数に偏りはあるが、スペース上は問題はなく適切であると思われる。 ・遊びの内容やお子さんたちの動線で机や遊ぶスペースを工夫しています。 ・なるべく物を置かずに、スペースの確保と刺激の調整を行っている。	・利用定員に対する基準を超えた面積を確保しております。登園人数が少ない時には、スペースが広すぎるため、物の設置や環境調整を行っております。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	5	・全体の職員体制が整っていて応援貰える時に、応援もらって職員を確保させてもらうことが出来た。 ・十分な人数の配置であり、フリーの職員や手の空いている職員が他のクラスに応援に入るなど、必要に応じて人数調整もしている。 ・クラスの垣根を超えて臨機応変に職員が動ける。 ・子ども人数に対しての職員数は多い。場合によっては内勤業務を行うようにしている。	・配置基準を順守しています。活動内容の狙いにあわせて職員配置の仕方を工夫しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16	3	・バリアフリーやエレベーターがあり、子供に合わせた保育室の広さやハード面も整っている。構造化や視覚支援はクラスの子供の状況に合わせて行っている。 ・お子さんのわかる力に合わせて、視覚支援の提示の仕方を変えています。	・経年施設であり成人施設と同じ建物であることから設計上の課題があります。ゾーン分けを行い、子どもにわかりやすい環境になるようさらに工夫をまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	4	・清掃や消毒、洗濯など行い、清潔で安心して過ごせるようにつとめている。 ・目につく箇所に關しては日々清掃を実施しているが、やり切れないことも多いためその際には長期休暇を活用して清掃や修繕を行っている。	・職員清掃や業者委託等で施設設備を維持し、必要な修繕を行っておりますが、経年施設であることから追いついていかないところがあります。引き続き衛生面の徹底をしていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	3	・個別の部屋や空いている保育室、廊下や、保育室内の空いているスペースなどが個別で過ごせる場所となっている。	・常時個別の部屋を設定をすることは難しいが、相談室や空いている保育室、また、衝立等でスペースを作り状況に合わせて使用をしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	19	0	・職員間で共有し、職場全体で意識が持てるようデータで共有を図っている。 ・勤務時間が違う職員とも共有できるよう、時間を設定したり、文章で伝えるようにしています。 ・保育後に職員間で支援の振り返りが出来ており、業務改善や情報の共有を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	0	・保護者の意向を日頃からコミュニケーションをとったり、事業者評価などで把握し、日頃の支援や態度を振り返り、改善点や要望があったら振り返り意識しながら業務改善につなげる。	保護者向け評価表の回収率が低かったため、回収率を高めること、日本語が難しい保護者に対しては丁寧に説明をし、意向を把握できるよう努めてまいります。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	0	・意見がある時、さらに連携する必要がある時、支援方法の検討等、話し合うべき時には時間を設けて意見交換するようにしている。クラスとしての方向性を確認することで連携した保育ができるように工夫している。 ・アンケートをとったり、日頃からコミュニケーションをとって、職員の意見を把握している。意見に対しては全体で共有し、出来る範囲で改善を行っている。	・全員が意見を言えるような環境を整備して多くの意見を集約して業務改善につなげていけるよう努めてまいります。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	19		外部評価を行っていないため、今後検討をまいります。	

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19	0	・ 園医の話を聞くことができたり、外部研修に参加する機会があり、とてもありがたい。 ・ 虐待研修、嘔吐処理研修、手洗い研修等、子どもと関わる上で必要な研修を受講できている。毎年行うことでより意識ができる。 ・ 研修は職場内研修や自主研修、外部の研修など、様々な専門研修や学習する機会がある。 ・ 施設全体で定期的に職員に向けた研修を行っている。 同じ研修内容でも毎年参加することが重要であると思うため、継続的に実施して欲しい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	0	・ 支援プログラムを検討・作成し、ホームページに掲載し、公表している。 ・ 副園長、児発管が中心となり作成。大まかに作成した物を全体で共有し確認することで、現場の意見も含めた支援プログラムが作成できた。	・ 保護者への通知が不十分のため、R7年の新年度に全体周知したい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19	0	・ 子どものニーズや現状、保護者の希望などを聞き取り、個々のお子さんの状態に合わせた支援計画を保護者と相談して作成している。 ・ 日々の保育での関わりや保護者からの聞き取りを行った上で、職員間子ども像を擦り合わせて計画を立てるようにしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	19	0	・ 児発管、職員、会計年度任用職員など、親子の支援にあたる職員間で、支援会議を開き共有をしている。 ・ 個別支援計画作成の工程を全て児発管で担うのではなく、担任と役割分担するようにした。 複数の視点からこどもの姿やストレングスを活用して検討することが出来た。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	18	0	・ 会計年度任用職員には報告したり、時間がある時に書類に目を通してもらうようにしている。 ・ 計画は必要に応じて内容の確認と支援の振り返りを行い、職員間で共有している。 ・ 話し合いで共有し、また保育のなかに具体的に組み込むことで、意識できるようには取り組んでいます。 ・ 個別支援計画と子ども状況を照らし合わせながら、クラス職員へ共有した。 ニーズや課題だけでなく、なるべく普段の保育の姿から子どもが取り組みそうな活動や役	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	19	0	・ 太田ステージやK式発達検査、KIDSなどでフォーマルなアセスメント、日々の観察や記録でインフォーマルなアセスメントを行なっている。 ・ 保育後に職員間で振り返りを行い、必要事項を個人記録へ記入するようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19	0	・ 5領域の項目が支援計画に設定され、具体的にお子さんに合わせた支援内容を設定している。 ・ クラス状況、子ども状況、こども・保護者のニーズを踏まえた上で、支援内容の設定を行った。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	0	・ 担当クラスで話し合い親子の状態に合わせながら検討や変更をしている。必要に応じて児発管に相談や助言をもらうこともある。 ・ まずはクラス担任間で活動内容について話し合いを行い、その後児発管を交えて検討を行った。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	0	・1日の流れは同じだが、提供する支援内容は遊びや環境設定を変えており、さまざまな活動や遊びに触れられるよう配慮している。 ・必要に応じてプログラムを固定化することで、子どもたちが安心して取り組めるようにしている。 ・集会の内容を適宜変更している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19	0	・集団の中で個別対応や、ここで落ち着いて取り組める時間を設けたり、別室で親子で取り組む時間を取る場合もある。 ・当番や役割などクラス活動の中で、各々が個別に取り組める活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	19	0	・子どもの状態が日々変わる中、支援に迷いも多く出てくる。職員間で話し合いや打合せができることはありがたい。 ・1日の流れ、保護者との話を共有、気をつける場面等、必要な情報を共有するようにしている。伝え漏れがないようにノート等も活用。 ・利用児が登園する前に、職員間で日課の確認と日替わりの内容の共有や、イレギュラーな予定の確認を行なっている。 ・当日打合せできない時には前日の支援後に職員間で振り返りを行い、確認する機会を設けている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	18	1	・親子が降園した後の清掃・片付けの時間や、事務作業の時間に、職員間でその日の振り返りや気づいた点を出し合っている。	・毎日職員間で話し合いを行っているが、勤務状況等で職員全員が揃わないこともあるため、不在の職員には次の日の朝には情報共有をしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	0	・子どもの変化や成長、親御さんからの話などの記録を残している。出欠やその理由、通院状況や障害需要などについても記録に残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	0	・半年に一回見直しを行い、支援計画を立て直している。 ・児発管とクラス担任とで情報の共有や役割を分担しながら、適宜見直しを実施している。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	18	1	・開催の際は、子どもの状況をよく理解している担当者や児発管が参加している。	・会議が実施されるときには参画しているが、相談支援事業所が入っているお子様が少なく、会議自体の開催がほとんど行われていない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	19	0	・関係機関へは情報共有をしたり、医療機関へ訓練同行をすることもある。 ・移行支援や通院同行や他機関との連携や情報共有など、必要に応じて連絡調整し、連携を取れるよう努めている。 ・クラス児が通う母集団（保育所、幼稚園、こども園等）に見学に伺い、情報共有を実施。必要に応じて他事業所との連携も実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	・併行利用先への訪問や年長児の交流保育を行っている。また、幼稚園や保育所への移行する場合は保護者の了解を得た上で情報共有をしている。 ・併用している児は併用先への訪問や連携などを行い、支援内容の共有や引き継ぎで相互理解を図っている。 ・保護者に確認の上、適宜学園での様子や取り組みについて共有を行った。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	・支援学校や支援学級などと移行支援を行い、引き継ぎや支援内容の共有をしている。 ・保護者からの希望によっては、就学先へ移行支援を実施し、学園での様子や必要な手立てや拝領について情報を共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	19	0	・連絡会を行い、定期的に集まり情報交換や意見を出し合い、連携や協力を図っている。	

関係機関や保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	19	0	・クラスでの検討事項、子どもの困った行動について、関わり方に悩む時は専門職に相談させていただいている。助言を参考にすることで、問題解決につながっている。 ・専門機関や専門職の助言を受けたり、通院や併用先と同行し子どもの状況や医療状況を把握して、支援に活かしている。また、職員を外部の研修に参加させ、研修内容は事後に回覧して共有している。 ・心理士、OT、PTからの助言や見立てをもとに、支援に活かすようにしている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	18	1	・センターのため、中心になって参加している。	・関係している職員以外の職員が理解としては高くないので、全体としての取り組みの周知が必要。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	18	1	・年長児の交流保育を実施。交流保育を行い、地域の子供達と交流しながら活動する機会をもっている。	・年長児の交流保育は実施しているが、園全体としての取り組みが実施できていないため、検討をしていく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18	1	・保護者と話す時間をとり、子どもの状況や成長を確認している。発達状況や課題については、保護者がここのペースで受け止めていけるよう配慮しながら共通理解に向けて支援している。 ・親子登園である為、登園時にその都度保護者と話しあい、共通理解を深めている。	・親子登園を通して、子どもの発達の状況や課題について話をしているが、共通理解について難しいこともあり、今後も保護者の方とコミュニケーションをとり、共通理解を深めていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	19	0	・保護者学習会、ペアレントサポートタイムなど ・懇談会でペアレントプログラムを行ったり、ペアレントサポートタイムとして、専門職も交えながら学習や支援の時間をとっている。 ・保護者状況によっては子どもの受け止めが困難なことも有り、懇談会にペアレントプログラムの要素を組み込んで話をする機会を設けている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19	0	・入園時、新年度に保護者向けに説明を行っている。 ・外国籍の保護者に向けては、保護者が理解しやすいかみ砕いてお伝えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19	0	・保護者への説明とご意見やご理解を図っている。子どもの意向は保護者を交えて、時にあっているものが確認している。 ・言語で意思表示が出来ないこどもが多い為、子どもの様子から得意なこと好きな活動を計画に落とし込んで作成するようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	19	0	・児発管が説明し、内容を確認のもと、保護者の同意を得ている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	19	0	・親子の表情の変化に気をつけている。困っていることに関しては、丁寧に傾聴、学園での様子も伝え、対応と一緒に考えている。 ・保護者と個別もしくはグループで話したり相談する機会を設けて、助言や支援を行っている。 ・希望があれば場面を設定して機会を設けている。保護者状況やニーズによっては対応する職員を変えるなど配慮している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	5	・親子登園等で保護者同士の交流する機会を設けている。きょうだい時は行事に参加してもらい、楽しめる場を提供している。 ・保護者会は無いが、保護者同士の交流や学習、おしゃべりをする時間を設けている。兄弟は行事に参加してもらい、兄弟の活動や出番などを設けたり、保護者から家族の様子を聴取して必要時に支援に繋げている。	きょうだい児支援については行事の参加をしてもらっている、きょうだい児にスポットを当てるような活動には至っていない。今後検討が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18	1	・保護者の困り感や、要望・希望がある場合は、丁寧に聞き取り、上司や職員間で共有し、できるだけ早く対応や対策などをこじっている。実施や対応内容を保護者に伝えている。 ・保護者から相談には迅速に対応し、内容によって対応日を設定（当日または後日）。必要に応じて副園長に同席してもらうなどの方法を取っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	18	1	・毎月お便りを発行し、全体の予定やお知らせを伝えている。緊急時はメールで連絡や、個別・クラス掲示などで対応している。	お便りや通知文等で発信しているが、言葉の問題や伝わりにくいこともあるため、情報の発信方法についてさらに検討をしています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	18	0	・個人情報を持ち出さず、持ち歩かずに厳重に管理している。郵送時は複数の職員で内容・宛名なども確認して、間違えないように配慮している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	19	0	- 口頭での説明だけでなく、書面や、視覚支援のイラストや写真も活用したプリントなどを用意することもある。外国籍の保護者に対しては、翻訳アプリの活用することもある。 ・メールや対面、電話など、保護者状況によって対応を変えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	9	・公開日を決め、市内の方や、利用児の関係機関の職員などに療育を見学・説明する機会を設けた。	・公開保育は再開できたが、コロナ禍を挟み地域に向けた行事は現在行うことが出来ないため、今後検討が必要。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	0	・研修や実技シュミレーションを職員全体で行ったり、情報共有をしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	0	・避難訓練、担当の役割を決め、避難訓練実施後は振り返りをして共有している。 ・定期的に避難訓練を行い、災害時の対応について検討を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	19	0	・保護者や、必要時は担当医もしくは通院状況の確認を行い、服薬や発作などの共有を行っている。 ・てんかん等、発作時の対応方法については、看護師も交えて職員間で共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	19	0	・医師の指示書に基づいて、栄養士と担任が保護者と献立の確認を行っている。配膳やアレルギー対応は職員全体で共有し、子どもの安心と安全を徹底している。 ・医師の指示書のもと、給食を提供。給食の発注や配膳などミスが無いように確認しながら実施している。	

非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	19	0	・計画のもと、日頃危ないことや気をつけた方がよいことは、ヒヤリハットとして職員間で共有し意識し、安全管理を心がけている。	・全員の職員が内容理解や支援へ反映できているかという点では、不十分であるため、研修や訓練等を継続してまいります。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19	0	・保護者にも説明や声をかけて、理解と協力を求め、安全を心がけている。 ・冊子にして誰でも閲覧できるように廊下に設置している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19	0	・担任間で状況確認、問題点、反省点、改善点、環境整備は万全だったのか等話し合い、検討。書類を作成し、再度確認し、再発防止に備える。また、全体ミーティングで他の職員とも確認している。 ・その日の振り返りの時間に職員間で報告・共有を図り、対策や対応についても確認している。 ・日々の保育で起こった内容を、ミーティングを通して共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19	0	・年に一回研修を受け、虐待を起こさないように支援で気になる点は話し合ったり改善するよう心がけている。	・動画視聴で研修を受講しているが、動画視聴だけでなく、現状の保育に照らし合わせた内容だと、より理解が深まると感じるため、今後の研修内容を検討していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	18	1	・身体拘束について、保護者と話し合い、支援計画にのせて十分配慮して実施するとともに、全職員で共有している。 ・現状、身体拘束の対応している対象児はいない。	